

事務局（魚津市）

富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会 第2回本線分科会 議事概要

1. 日時・場所

令和7年11月29日（土）13時15分から14時00分

魚津市役所2階 第一会議室

2. 出席者

所 属	役 職	氏 名	備 考
富山県	知事	新田 八朗	
滑川市	市長	水野 達夫	
魚津市	市長	村椿 晃	司会進行
黒部市	市長	武隈 義一	
上市町	町長	中川 行孝	
富山地方鉄道株式会社	代表取締役社長	中田 邦彦	

3. 議事概要

（1）富山地方鉄道本線あり方調査の中間報告について（調査事務局（黒部市）説明）

- ・ 本線の運行状況（輸送状況等）、必要性（高校生の利用割合、観光客の利用者数推計等）など
- ・ 上市駅～宇奈月温泉駅の運行形態を6パターンで比較し、鉄道ネットワークの視点、持続可能な鉄道運営の視点、利用者の視点から評価、3パターンへの絞込み
- ・ 利用者を増やす取組み：新駅設置、新型車両の導入、滑川駅・新魚津駅等でのあいの風とやま鉄道への接続性向上など
- ・ 鉄道施設の維持管理・整備に要する費用（10年間）：現行維持の場合の電鉄富山駅～宇奈月温泉駅における維持管理費77.3億円、整備費24.2億円

（利用促進・利便性向上策の費用や大規模構造物の維持修繕費などは最終報告までに整理）

（2）分科会の協議結果

- ・ 運行形態は、鉄道ネットワーク維持と利用者の利便性の観点から、①現行路線維持、②あいの風とやま鉄道との並行区間の営業運行を廃止（車両回送に使用）、③同区間を廃止撤去（車両回送も行わない）の3パターンに絞り込んで今後の検討を進める。
- ・ 本線のあり方について、丁寧に論議する時間を確保するため、令和8年度について、本線を含めた全線を一体で支援する方向で、12月のあり方検討会で、対応を協

議することを確認。

(3) 意見交換（主なもの）

【地鉄側の発言として次の意見】

- ・ 鉄道ネットワークを維持したいということをお聞きし、心強く感じる。延長が長く輸送密度も低い環境にあることから、利用増を図っていくことが一番重要。沿線の皆様方が存続に向けて、利用増に取組まれるということであれば、事業者としてもできる限りの協力をさせていただきたい。
- ・ 令和8年度の対応については、12月のあり方検討会で示される方向性をお聞きした上で、最終的な判断をしたい。

【市町側の発言として次の意見】

- ・ 県東部全体として鉄道という財産をどう活用するかという視点が重要であり、将来の目指す方向性を明確にして議論していきたい。令和8年度に支援するのは、単なる先延ばしではなく、将来のあり方を検討をする時間を確保するためのものであり、特に新魚津駅での接続性の向上、例えば、同一ホームでの乗換えやあいの風とやま鉄道の宇奈月方面への車両の乗入れなど、利便性の向上や利用者増加に向けた検討をコストを含めて具体的に深めていく必要がある。
- ・ 並行区間が課題となる中、中期的に早月川橋梁をどうするのか、費用感も明らかにした上で市民と対話をし、方向性を定めていきたい。
- ・ 今後も地鉄をしっかりと支えるという思いは変わらない。
- ・ 年度内に取りまとめられる利用促進策や事業費を踏まえ、市民の意見もお聞きしながら考えていきたい。

【県側の発言として次の意見】

- ・ 県地域交通戦略会議の鉄軌道サービス部会での「鉄道は地域公共交通ネットワークの要。鉄道ネットワークを維持する観点から、公的な資金を含めてしっかりと支え、議論していく時間が必要」とのご意見も踏まえ、公的負担を検討することは必要と考える。
- ・ 先週開催された立山線分科会では、藤井市長の代理で出席されていた富山市の副市長から、「来年度は今のままの運行を続けていくため、赤字区間だけでなく、地鉄全線を一体的に考えて、1年間どうするかという議論が必要。12月中にあり方検討会を開催し、全体で議論すべきであり、市長に報告して、開催を進めるようにしたい」との発言があった。やはり地鉄全線を一体的に考えることが大切ではないか。
- ・ 納税者である県民や沿線住民の意見を伺うためにも、最終報告に向けて、より調査を進めていただきたい。

以上